

1. 13年度活動のまとめ

- ①スキーは、生涯スポーツです。年齢、体力・技術に応じて、ゲレンデやバーンを選んで楽しめます。又いくつになっても意欲さえあれば、技術は向上します。このようなさまざまな要望をもったスキー愛好者が参加しやすい、公開スキー山行となるよう、恒例楽しく滑るAプラン、レッスン主体のBプランは通年実施、さらに、近場ゲレンデ日帰りのCプランを加えました。土日休日の山行立案にも心がけました。新たな山行リーダーが複数登場したこともあり、山行数、参加者数とも伸びました。
- ②中高年の安全で楽しいゲレンデスキーをめざして滑走前に「用具の安全確認(ビンディングの解放値等)」「入念な準備運動」「周囲の確認(滑走開始時・滑走中・停止時に他の滑走者への注意等)」「無理せず、背伸びせず」など安全スキーの原則を参加者に徹底するよう努めました。
- ③初級者のスキースクール参加企画、滑走時のサポートなど初級者が安心して参加出来るよう配慮しました。
- ④オフシーズンのスキー訓練山行は出来ませんでした。

・山行回数と参加者数

回 数				参加者数			
10年度	11年度	12年度	13年度	10年度	11年度	12年度	13年度
15	13	22	26	141	125	166	170

1) Aプラン

- ・活発な計画であった。2山行が重なる、相前後することがたびたびあり、3山行が重なるときもあった。それぞれに参加者はあり選択肢が提供できたようだ。
- ・3山行が中止となり、本年度は9山行を実施した。妙高植木スクール休校の影響で大口参加がなくなっても総数は微増。
- ・参加者の滑走技量に差が出ると気を遣う。

2) Bプランについて

- ・夏、秋にも実施できた。シーズンインでの参加者が多かった。
- ・来シーズン、会への貢献かつ同好会の裾野を広げられるよう、公開【初心者スキー教室】企画は次回へ保留。

3) Cプランについて

- ・きそふくしまスキー場は、ゲレンデ状況、アクセス等よく来期も継続の方針。
- ・来期は、奥美濃日帰りを追加。
- ・奥美濃で女性、シニアデイ利用をつなげて無料で遊べる。朴の木も平日の宿泊パックでリフト代は実質無料。

4) その他

- ・男性の参加者は少ないが、新規の男性参加があった。
- ・山行費用の目安金額を示してほしい。
- ・スキーリーダーの発掘・育成(新規の女性、世代交替)があり、来年度も望めそう。
- ・病気、怪我によるキャンセルが目立った。計画中止を含めて無理のないように。
- ・インフルエンザ等感染症の対策

2. 14年度役員

部 長	3091
副 部 長	1103、2592、2722
会 計	2829
スキー同好会担当幹事	1962

3. スキー同好会連絡先

- ①山行計画書・山行報告書の送り先、および留守本部。(計画書・報告書の書式は規定類集に則ること)
 - イ) スキー同好会部長
 - ロ) ふわく山の会 安全対策部長
- ②留守本部は、次の順で記入(連絡)して下さい。

1103、2592、2722、2829、その他 スキー同好会の知人
- ③会計連絡先

2829

郵便振替口座番号：00830-2-117313

加 入 者：ふわく山の会スキー同好会

郵便振替にて納入の場合、各リーダーまたは当該スキー山行会計は、スキー参加費から郵便振替料金を差し引いて、振込用紙通信欄に【月日、スキー山行名、会員・非会員参加者数、CL名】を記入の上、スキー山行後10日以内に振込願います。

4. 2014年度活動方針

- ①スキーは、生涯スポーツです。年齢、体力・技術に応じて、スキーを楽しみたいと考える方々、スキー技術向上をめざしたい方々、スキーを再開したいと考えている方々など、さまざまな要望をもったスキー愛好者の参加しやすい、公開スキー山行となるよう計画・運営方法を工夫します。
- ②中高年の安全で楽しいゲレンデスキーをめざして滑走前に「用具の安全確認」「入念な準備運動」「周囲の確認」「無理せず、背伸びせず」など安全スキーの原則を参加者に徹底するよう努めます。
- ③初級者が安心して参加できるよう、みんなでサポートします。

- ・海外スキー（ツェルマツト）を検討する。2月末～3月上旬 9日間（滑走6日） 旅費、食費、ガイド付きリフト券で40万円くらい。8～10人。
- ・スノーフェスタとの関わりを検討。同好会の山行予定と重ならないように調整するには日程は8月以前に決めてほしい。幹事会扱いの題材なので動きを見守っていく。

5. スキー同好会の申し合わせ事項

- ①スキー同好会役員の任期：部長、副部長、会計の任期は原則として2年とし、再任を妨げない。
- ②スキー山行参加費：リーダーは会員一人一回につき100円、非会員一人一回につき600円を参加費として集金し、部の会計に納入する。また、事務費として一人一回につき、日帰り100円、泊付200円を集金し、リーダーに支払う。
- ③スキー教室：(ア)初心者には状況により現地のスキースクールに個人的に参加するよう勧める。
(イ)現地指導員のスキースクールの費用は個人負担とする。ただし、初級コースに限り一山行につき500円の補助をする。
- ④スキー山行計画：(ア)8月下旬の運営部会で、シーズン全体の計画を作成する。山行日程はふわく山の会「特定日の山行自粛に関する規程」に従って計画する。
(イ)各山行のリーダーは、運営部会で決定したスキー山行計画に従い、会報に掲載する案内の原稿(月例山行案内原稿)を、毎月の会報原稿締め切り日案内に従って会報部に提出する。取り消しや実施日・山域などの変更があるときは、各リーダーが出来るだけ早く部長に申告し、承認を得てから会報原稿を提出する。この場合部長は、会報原稿が提出されるまでに会報部保管のスキー山行予定表を訂正するとともに、会報部に変更原稿を提出する。
(ウ)各山行のリーダーは、実施日までに山行計画書を、スキー部長自宅と安全対策部長宛に提出する。参加者への山行計画書配布も原則同様とするがリーダー判断により実施当日も可とする。
計画書に変更のあった場合には、速やかに再提出すること。
- ⑤スキー山行報告：(ア)リーダーは山行実施後10日以内に、山行報告書を、スキー部長自宅と安全対策部長自宅宛に提出する。
(イ)部長は提出された山行計画書、山行報告書を確認する。
- ⑥事故報告の仕方：(ア)事故の場合、リーダーは本人の状況を確認の上、部長及び安対部長に電話連絡し、事故報告書を、速やかに部長及び安対部長に提出する。事故者は、保険担当者へ速やかに連絡し指示を受ける。
(保険手続き上1ヶ月以内。スポーツ保険担当は 氏)。
部長は、リーダーから提出された事故報告書を確認のうえ、直近のスキー部会で再発防止策などにつき討議し、討議結果を安対部長に報告する。
- ⑦安全スキーの徹底：リーダーおよび参加者は事故防止のために、用具の点検、準備運動、安全意識の再確認(ゲレンデ状況、無理せず・背伸びせず、体調、滑走マナー等)を励行する。

6. 会計報告

収 入		支 出	
前期繰越金	66,011	運営部会経費	4,052
参加費(剰余金含む)	19,600	振込手数料	240
郵貯利子	14	通信費・他	0
		スクール補助金	500
		次期繰越金	80,833
合 計	85,625	合 計	85,625